

実施報告書

1/2 取組みに関する基本情報

◆ 基礎情報

計画名	文科広報活動を通じたリーダーシップの具体化
実施責任者	文科 一前春子
対象者	文科 1年3名 2年6名
実施期間	2025年4月～2026年3月

◆ 取組み概要

背景

文科広報活動を担う文科広報委員は卒業に必要な活動ではなく、参加者の目的は多様である（インスタグラムの運営や動画編集に興味をもって参加する学生、友人と一緒に活動することに興味をもって参加する学生など）。そのため、学生の参加意欲が変動しやすく、活動の維持が課題となっていた。2025年度は、仲間意識を育てることで広報活動を活発化することを狙いとした。

目的

同じ目的のために協働する仲間という感覚を醸成することで広報活動への定期的な参加を促し、参加者が自分の特性に基づいたリーダーシップを発揮しながら広報活動を行うことを目的とした。インスタグラムの効果的な使い方を学ぶ講座を生活科学科と連携して行うことで、リーダーシップを成長させる機会の充実を図った。

◆ 取組み全体の流れ

(前期)

- 4月 文科広報委員のメンバーの確定。
- 5月 前期の文科や短大のイベント等をふまえてインスタグラムの投稿担当者や投稿テーマを決定する（5-6月）。
 - 共立リーダーシップに基づき、リーダーシップ目標を設定する。
- 6月 インスタグラムの効果的な使い方を学ぶ講座の実施（生活科学科と連携して実施）。
- 7月 前期の文科や共立のイベント等をふまえてインスタグラムの投稿担当者や投稿テーマを決定する（7-9月）。
 - 共立リーダーシップの観点から、半期の振り返りを行う。

(後期)

- 9月 後期の文科や短大のイベント等をふまえてインスタグラムの投稿担当者や投稿テーマを決定する（10-12月）。
- 12月 後期の文科や短大のイベント等をふまえてインスタグラムの投稿担当者や投稿テーマを決定する（1-3月）。
- 1月 次年度のメンバー構成について検討する。
 - 共立リーダーシップの観点から、振り返りを行う。

◆ 取組みの成果

文科Instagramの運営

- ・SNSで情報を収集する高校生へのアピールを意識し定期的にインスタグラムの投稿をすることができた。
https://www.instagram.com/kyoritsu_bunka/

SNS講座の開催

- ・SNSへの投稿の意味をふまえてSNSの投稿に関する技術を学ぶことができた。
https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/junior_college/bunka/news/detail.html?id=5953

実施報告書

2/2 リーダーシップの育成に関する報告

◆ リーダーシップ教育に関する実践

共立リーダーシップの意識づけ、目標設定の活動	<ul style="list-style-type: none"> 「目標の設定と共有」「率先垂範」「相互支援」「包容性」を具体的な行動としてイメージできるようにするために、ミーティング初回に教材（共立リーダーシップ実践ガイド）を用いて共立リーダーシップの定義を説明した。 共立リーダーシップに基づき、学生は自分が成長させたい力（リーダーシップ目標）を設定した。 学生の目標設定には、リーダーシップ行動確認シートを使用した。
協働活動	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容は、（1）定期的なミーティングの実施、（2）文科インスタグラムの運営（3）インスタグラムの効果的な使い方を学ぶ講座の開催、であった。 学生が動画や写真を活用して投稿を行いインスタグラムを運営をする中で、助け合う人間関係の重要性を認識し、自分の特性を生かして目標達成に向けた行動をとることができるように支援した。 具体的なロールモデルを持つことで、リーダーシップを実践する姿を学生がイメージできるよう支援した。
共立リーダーシップの観点での振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 最後のミーティング時に、1年間の活動に対して共立リーダーシップの観点からの意味づけを行った。 学生は半期ごとに（前期7月と後期1月）に共立リーダーシップの観点から振り返りと課題の抽出を行った。 学生の自己評価にはリーダーシップ自己評価シート（Bタイプ）を使用した（「目標の設定と共有」「率先垂範」「相互支援」「包容性」に対する5件法の評定、自由記述）。

◆ 学生の成長に関する総括

- 学生は自分の設定したリーダーシップ目標を意識して広報活動を行うことができた。
リーダーシップを高める協働的な活動に参加することを目的として集まったメンバーではなかったが、役職（委員長・副委員長）、他者との関係性（先輩・後輩）など自分がおかれた立場や役割を考慮してリーダーシップ目標を設定できたことが理由と考えられる。
- 学生それぞれの振り返りをチームで共有するような相互評価の実施には至らなかった。
今回の振り返りは自己評価のみの実施であった。相互評価を利用することで、他者が認識した行動変容と自己評価を比較し改善点を見出すことができる。このように複数の評価方法を用いて振り返りを実施することが重要であるが、ミーティングの時間の制限等から相互評価を行うことができなかった。

◆ 取組みを通した全体の所感

- 各メンバーがリーダーシップを発揮しながら文科広報委員会の目標を達成することができた。
インスタグラムの運営上の目標を定期的なインスタグラムへの投稿と明確にしたことで、学生が相互支援の行動をとりやすくなったと思われる。少数のメンバーのみが活動しているといった状況に陥ることなく、協力しながら目標を達成することができた。
- 異なる場でのリーダーシップの発揮のためには学生に認識の変化が必要である。
解のない課題に取り組む場面、見知らぬ人と協力しなければならない場面においてもリーダーシップを発揮するためには、授業や課外活動におけるリーダーシップの実践を統合して学生一人ひとりが自分の成長する姿をイメージできるような支援が必要である。

◆ 今後の展開

- 今年度の活動によって確立した組織運営の方法や協働する環境づくりを維持し、広報活動の規模を拡大することを目指す。
- 今年度に引き続き、次年度も生活科学科と連携して広報活動を進める。